

で あ い こ う か



こうかそま こびき  
甲賀杣の木挽職人  
たなかしんじろう  
田中新治郎さん

甲南町森尻在住の田中さんは、重要有形民俗文化財に指定されることになった前挽鋸（詳細はP9参照）を使いこなした木挽職人。国土緑化推進機構が認定する「森の名手・名人100人」にも選ばれた木挽の技と、前挽鋸についてお話を伺いました。

■木挽職人として

木挽を生業とする家に四代目として生まれ、16歳で父に弟子入りしました。植樹から伐採、運搬そして製材まで、木挽は一通りの山仕事をこなします。父は仕事に厳しい人でしたから、一切の妥協や甘えは許されません。必死に技を盗み、腕を磨きました。

今と違い、ほとんど手作業でしたが、伐採では思った方向に寸分の狂いなく木を倒し、鋸ひとつで木を縦に挽き、厚さ2分(6mm)の板を切り出すこともできました。

甲賀の木挽職人の腕前は有名で、京都の方からも仕事の声がかかりました。

■前挽鋸の思い出

甲賀の前挽鋸は、それを使う職人一人ひとりに合わせた受注生産で、品質もよく重宝しました。同じような作業でも、常に数種類の鋸を手元に置き、木の種類や反り、木目に応じて使い分けました。

鋸の歯は自分で目立てします。職人それぞれにクセがあるからです。職人と道具は、まさに一心同体のようなものでした。この前挽鋸が文化財に指定されることになって、私は本当に幸せ者だと思っています。



▲矢川神社の御神木の伐採(昭和26年)  
右から二人目、背丈ほどの鋸を手に持つ田中さん

安全で便利に使えるように

甲南第二小学校 ケータイ教室

甲南第二小学校で2月12日、「ケータイ教室」が開かれました。

携帯電話やネット環境をめぐる様々なトラブルに巻き込まれないための正しい利用方法を学ぶ機会にと、通信会社から講師を招き、3年生から6年生の児童が受講しました。

啓発用アニメを見たり講師の質問に答えながら、児童らは、便利さの裏に潜む危険や、目に見えない相手とコミュニケーションを図る際の注意点などについて、真剣な表情で考えていました。



▲講師からの質問に答える児童

甘くておいしい家づくり

にんくる土曜塾

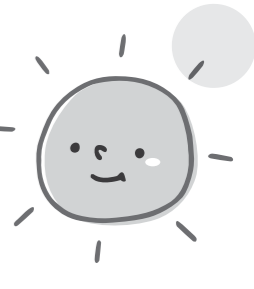
「お菓子の家づくり」が2月14日、にんくる児童館で開催され、9人の児童と保護者が参加しました。溶かしたチョコレートで、さまざまな形のビスケットを貼り合わせ、三角屋根にしたり、煙突をつけるなど工夫を凝らした家に、色とりどりのマシュマロやチョコで飾りつけをして完成です。

参加者らは、「食べるのがもったいないなあ」などと話しながら、出来上がったマイホームを嬉しそうに眺めていました。



▲思い思いに「おかしの家」をつくる参加者

元気なまちかど



地域の憩いの場  
「ぬくもり喫茶牧の里」

信楽町牧区で1月31日、「ぬくもり喫茶牧の里」がオープンし、お祝いに駆けつけた多くの住民で賑わいました。地域で取り組む「見守りネットワーク活動」の一環で、自宅にこもりがちな高齢者が気軽に集える居場所を作ろうと、同区の健康福祉会を中心に有志メンバーが地域の空き店舗を改装。備品の多くも区民からの寄贈で揃えられました。毎週火曜と土曜日の開店で、喫茶メニューはどれも100円。SKR雲井駅に近く、地域を訪れた来訪者を迎える場としても活用されます。



▲特製のマグカップで乾杯

いじめのない学校を

綾野小学校 いじめ防止啓発劇

綾野小学校で2月2日、児童会計画委員会の16人が全校児童を前に、いじめ防止を訴える劇を披露しました。

なかよく笑顔が絶えない学校を願い、児童の発案で企画されたもので、昨年11月から準備や稽古を進めてきました。

同級生がいじめに遭う場面に居合わせた児童が、心の迷いを吹き飛ばし、いじめた児童を注意する内容で、最後に「やさしさ」「声かけ」「相談」「気持ち」など、いじめ防止に向けたメッセージパネルを掲げました。



▲メッセージパネルを掲げる児童

ほんのり甘い手づくりバター

土山小学校 食育出前講座

食育出前講座が2月10日、土山小学校で開かれ、1年生児童26人が体験しました。講師を務めた乳業メーカーの社員から、牛乳に含まれる栄養や乳牛の話の聞いた後、生クリームを使ってバターの手づくりに挑戦しました。生クリームが入った容器をよく振り、水分を絞りながら混ぜると、乳脂肪分が分離して次第にバターに変わります。出来立てのバターは、滑らかな舌触りでほんのり甘く、児童らはクラッカーに塗って美味しそうに味わいました。



▲出来立ての手づくりバターを試食